

(3月) 春霞 (はるがすみ)



季節が春になると、冬にはくっきりと見えていた山影が、ぼんやりと白く霞^{かす}んで見えるようになる。春霞^{はるがすみ}である。この正体は、微細な水滴（水蒸気）、黄砂^{こうさ}、花粉、ほこりなどである。気温が上がると空気中の水蒸気は、冬よりも多くなり、地上付近の砂やほこりは、春風に巻き上げられて空気中に漂^{ただよ}いやすくなる。黄砂は、中国大陸のシルクロードの砂が上空の偏西風に乗って運ばれてくる。また春にはたくさんの花が咲き、私達の目を楽しませてくれるが、花粉症をもたらすスギやヒノキの花も開花する。これら多くの「細かい塵^{ちり}」が空気中を漂うことで、七色の太陽光線が塵に反応（散乱）して白色光となり、空が白っぽく見えるようになる。

春霞のかかった空気は、油断すると洗濯物などに黄砂や花粉がつく事も…。特にテニスなどの屋外スポーツは、マスクなどの対策も必要となるだろう。

(備考) 一方秋の空気は塵や水蒸気が少なく、澄んでいて「天高く馬肥ゆる秋」とも言われる。大陸の乾いた高気圧に覆われるため…。 (鈴木 徹)